



課題研究の進め方

これは、10年経験者研修講座の各教科の課題研究の研修で使っている資料をまとめたものです。

「課題研究の進め方」と「課題研究報告書の書き方」について、教科を限定せずに一般的に紹介してありますので、校内研修などにご活用ください。

課題研究の進め方

I 課題研究の進め方

1 「課題研究」のねらい

日頃の教育実践を通して研究すべき課題を設定し、その究明を図ることにより、教員としての資質の向上を図る。

2 研究の内容及び方法

〈仮説・検証による実践的研究〉

授業の改善・充実を図るために、仮説を立て、その仮説に基づいて授業等を実践し、仮説の有効性を検証する研究

- (1) 教科指導上の実践研究として研究報告をまとめる。
- (2) 自分の教科の単元・題材を通して、具体的な授業研究を行う。
- (3) 最終的な見通しを立てながら研究を進める。

留意点

ア 今までの様々な授業実践・経験を整理することで授業実践上の問題点を洗い出し、それらの問題の中から研究主題を絞り込む。

○児童生徒の変容や成長に直接かかわるもの

・教科のねらいに照らし合わせてどのような能力を育てるか焦点を明確にする。

○教育実践の質を高め、その方向付けを行うもの

○研究に修正を加えながら進めるという可変性、柔軟性のあるもの

・手立てなどは途中で改変することも考えてよい。また、結果が思わしくなくても正確な分析をし、課題を明確にする。

イ 主題に迫るために仮説を設けて検証していく場合は、**検証の客観性**に留意する。

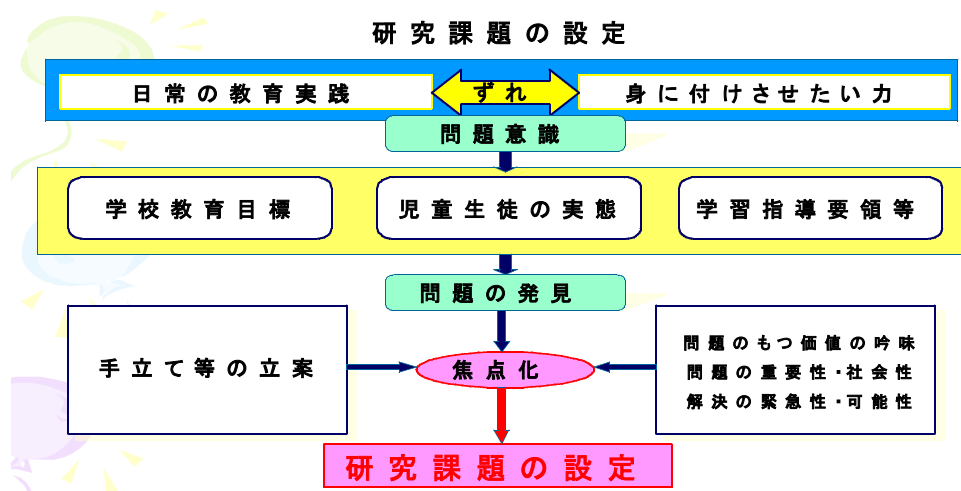
○理論的、実証的な裏打ちをもつもの

・理論的な裏付けとは…児童生徒の発達段階や理論的な面については、様々な研究書に当たる。

…学習指導要領に示されている児童生徒の傾向、あるべき姿などを基にする。

・実証的な裏付けとは…児童生徒に対する実態調査の実施と分析

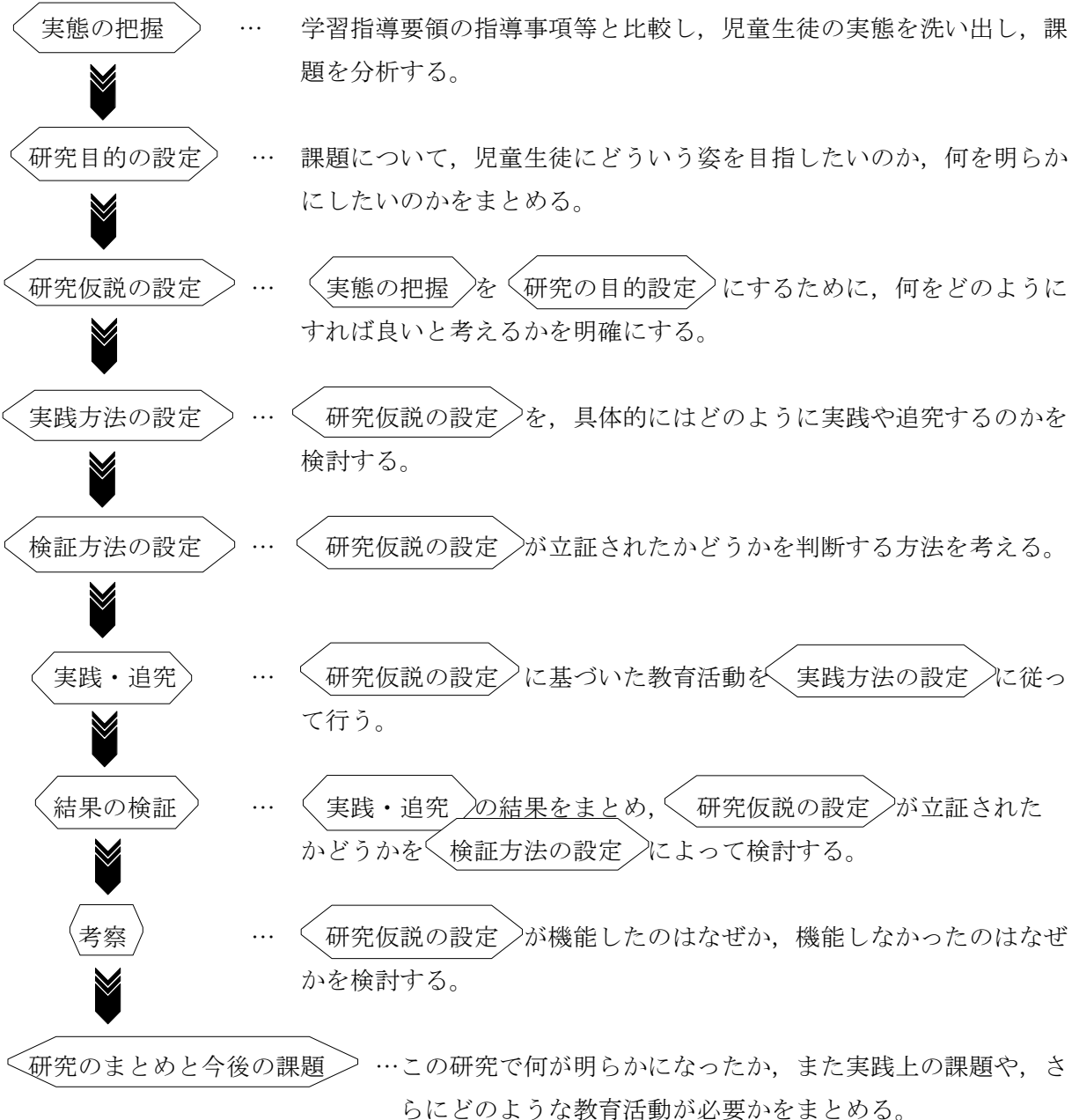
3 課題の設定



4 課題研究の構想

課題研究の構想	
1 日常の授業における問題点は何か	
2 授業で改善したいと思うことは何か	
3 児童生徒のどのような変容を期待するか	
4 改善のためにどのような手立てを講じるか	
5 どの単元（題材）で実践するか	
6 学習指導要領，中央教育審議会，教育課程審議会，専門家による研究書など，研究の考え方の支えになるものは何か	
7 研究主題 副主題（案）	研究主題 副主題
8 研究の仮説	
9 仮説検証の計画と方法	どの場面で実践するか
	どのような手立ての工夫をするか
	手立ての有効性をどのように確かめるか

5 研究の進め方の例



3 研究のねらい

この研究によって期待される成果，目指している事柄を簡潔にまとめる。

〈「研究のねらい」の書き方例〉

〇〇〇における〇〇〇の工夫を通して，〇〇〇を育てる〇〇〇の学習指導方法を追究する。

↑
研究副主題

↑
研究主題

4 研究の仮説

研究の内容を最も簡潔に，最小限の形に凝縮して表現したもの。

「とにかくやってみてどうなるか結果をみよう」ではなく「たぶんこうだから，こうなるはずだ」という結果の予測（想定）。

仮説設定の留意点

- (1) 研究の領域を限定する。どこで（何で）。…対象・場
- (2) 研究の重点を決める。何をどのようにするか。…手立て（方法）の工夫
- (3) 研究の具体的結果を予測する。どう変えようとするか。…変容の姿，こういう児童生徒にしたい
- (4) 「研究主題」，「主題設定の理由」，「研究のねらい」との整合をする。

〈研究の仮説の書き方〉

(例1) 〇〇において，〇〇の〇〇をすれば，〇〇になるであろう。

(1)内容・場等 (2)手立て（方法）の工夫 (3)児童生徒の変容（目指す児童生徒像）

↑
研究対象の限定

↑
研究のポイント

↑
検証方法の確立

(例2) 〇〇に，〇〇を〇〇することによって，〇〇することができる。

(1)対象・場等 (2)手立て（方法）の工夫 (3)期待される結果

↑
研究対象の限定

↑
研究のポイント

↑
検証方法の確立

5 仮説検証の方法

「研究のねらい」を達成，あるいは「研究の仮説」を確認するために，いつ，どこで，誰（何）に対して，何を使って，どのような方策を行うのか。また成果をどうやって確かめるか。研究計画は授業検証を経てまとめるように方向付けをする。授業検証は1回の授業で結果を出したりしないよう慎重に進める。

- ・ 検証の観点（何を検証するのか）
- ・ 検証の場面，方法の明確化（意識調査・実態調査等）
- ・ 処理と解釈の方法の選定

6 「研究の内容」等の書き方

- 1 主題設定の理由
- 2 研究のねらい
- 3 研究の仮説
- p. 4, 5にて解説済み
- 4 研究の内容（仮説についてどのような結果が得られたかの理由の分析をする）
- (1) 基本的な考え方（研究主題や副主題のキーワードを詳しく述べ、定義する。
学習指導要領解説、指導資料、先行研究等の文献を理論的背景にするとよい。）
- ア ……………
- イ ……………
- (2) 主題に迫るために（・研究主題、ねらい、仮説との整合性をとる。
・ア：実態調査、イ：指導上の重要な手立て（指導法や学習形態の工夫などとするとよい。）
- ア □□□□
- イ ◆◆◆◆
- (3) 授業実践（調査研究の場合は、ウ以降もある）
- ア 単元・教材・題材について
- イ 指導の実際（指導の工夫改善のポイントを明確にする）
- ・指導と評価の計画（学習指導案）
 - ・**授業実践の様子を具体的に**
 - ・観察記録（必要に応じて）
- (4) 分析と考察（仮説の適否を生徒の変容や学習活動の事実によって検証する。）
- ア □□□□について
- (ア) ……………
- (イ) ……
- イ ◆◆◆◆について
- (ア) ……………
- (イ) ……
- 研究の仮説や検証方法で取り上げた手立てと整合するように書く。
- 5 研究のまとめ（ねらいは達成できたか。研究を通してどのようなことが分かったか、また、明らかになったかをまとめる。）
- (1) □□□□を行ったことで…
- (2) ◆◆◆◆を行ったことで…
- 6 今後の課題
- （・研究を進める上で、研究のねらいの何が追究できて、何が未解決なのかを明らかにする。
・研究の反省点を、研究の仮説、研究の内容と方法の両面から明らかにする。特に、研究の事実から言えるものを中心に挙げる。）

参考文献・引用文献（区別して必ず明記すること）

〈著者名『書名』発行所 発行年〉 *参考文献（研究を進める上で参考にした文献）

*引用文献（本論で引用した文献）